



AFICS-JAPAN Newsletter

第19号

Mission Statement

国連システム元国際公務員日本協会
(AFICS-JAPAN)は、

- > 国連システムの活動に協力します
- > 会員のために必要な情報収集を行い、最新情報を提供します
- > 会員相互の意見交換や情報交換のための交流会を開催します
- > 国際機関で働く人材育成を支援します

<<記事一覧>>

- 会長 年頭のご挨拶
- 日本の税制に関するセミナー
詠 昌弘氏
- 国連職員を目指す学部生・大学院生のための実践講座
- 会長との対談会
田島 まいこ参議院議員
- 第55回FAFICS Council報告
- 高瀬千賀子さんを偲ぶ会
- 国連合唱団平和コンサート事業
- Member Self-Serviceの登録
- 会員短信
 - 長谷川会長瑞宝中綬章授与
 - 新入会員
- お知らせ
 - 役員の改選選挙
 - 第15回年次総会・講演会・懇親会のご案内
 - 2026年会費納入のお願い
 - 会員からの投稿募集

2026年1月31日発行

年頭のご挨拶

会長 長谷川 祐弘

会員の皆様

昨年末、成田からチューリッヒへ向かう機中で、映画『2001年宇宙の旅』を久しぶりに鑑賞する機会がありました。半世紀以上前に制作された作品でありながら、人間と人工知能、そして「判断」と「責任」の関係について、今日の国際社会に極めて重要な問いを投げかけていることに、改めて深い印象を受けました。

作中で描かれる人工知能 HAL は、冷静で合理的な判断を下しますが、その過程で人間の生命を犠牲にすることをためらいません。そこに示されているのは、「意識」や「知能」がどれほど高度であっても、「良心」や「責任」を引き受ける主体でなければ、人間社会を支えることはできない、という厳しい教訓であるように思われます。

今日の国際社会においても、効率や力、計算が優先され、人間の尊厳や倫理的判断が後景に退きつつある場面を、私たちは少なからず目にしています。近年、とりわけ懸念されるのは、国家の指導者の中に、まるで HAL のような AI エージェントのごとく、データや戦略計算、即時的成果を最優先し、行為の倫理的帰結や人間的責任を顧みない意思決定に傾きつつある姿が見受けら

れることであります。

だからこそ今、長年国連や国際機関で実務を担ってきた私たち元国際公務員一人ひとりが、人間の尊厳とは何か、国際社会における責任とは何かを、改めて静かに問い直すことが求められているのではないのでしょうか。



とりわけ深刻なのは、国連憲章の精神と規範に反して、一部の大国が軍事力の行使によって国際法を事実上無視し、既成事実を積み重ねている現状であります。このような状況を前に、国際社会の平和と安全を守るべき国連安全保障理事会が、十分にその責務を果たせていないという現実を、私たちは率直に受け止めなければなりません。世界の平和を求める声をより正当に反映させ、国連憲章に基づく集団的安全保障を実効あるものとするためには、安全保障理事会の改革が不可欠であります。

その際、日本に求められている責任は、単に自国の地位や国益の観点から改革を論じることではありません。国連憲章の理念と国際社会全体への責任を踏まえ、世界社会の住民一人ひとりが安全で安心して暮らせるよう、「人間の安全保障」を最重要の価値として位置づける安全保障理事会へと改革を導いていくことであると考えます。私たちAFICS-Japanの会員も、それぞれの経験と知見を生かし、こうした方向性を静かに、しかし粘り強く社会に伝えていく役割を担っているのではないのでしょうか。

なお、私事で恐縮ではございますが、昨年11月、瑞宝中綬章を授与していただきました。この栄誉は、私個人に対する評価というよりも、日本人が国際機関の一員として、国際平和と国際協力のために長年にわたり果たしてきた貢献の意義が、改めて認められたものであると受け止めております。国連をはじめとする国際機関の現場で、目立たぬも誠実に責務を果たしてきた多くの日本人の努力と志を代表してのものであると考え、身の引き締まる思いでおります。

AFICS-Japanは、単なる親睦団体ではなく、国連の理念と精神を体現してきた経験を、次の世代と社会に伝えていく責務を担っています。技術や制度がどれほど進歩しても、最終的に世界の方向を決めるのは、人間の良心と勇気であるということを、私たちは自らの歩みを通じて知っています。

本年も、会員の皆様とともに、国連の原点である人間の尊厳、多国間協調、そして倫理に根ざした国際協力の重要性を、静かに、しかし確かに発信していきたいと存じます。

2026年が、会員の皆様お一人おひとりにとりまして、健康に恵まれ、心豊かで、意義深い一年となりますよう、心よりお祈り申し上げます。

2026年1月吉日

日本の税制に関するセミナー

AFICS-Japanはファイナンシャルプランナーの詠昌弘(ながめまさひろ)氏を講師に迎え、税制セミナー「認知症リスクに備える！生前贈与と生命保険の活かし方」を2025年8月8日にオンライン形式で開催した。セミナーでは、認知症になり判断能力が無くなる前の対策として、主に生前贈与と生命保険の活用についての説明がされた。生前贈与については、名義預金(民法上の贈与)として被相続人の相続財産とみなされないために、贈与金額に関わらず、贈与契約書を贈与のたびに作成することの重要性が強調された。生命保険については、分割、納税、相続税対策として有効であり、中でも相続税対策として生命保険の非課税枠の活用について数例をあげて説明が行われた。セミナーには30名が参加し、セミナー後に行ったアンケート調査では13名からの回答があり、内容については概ね好評であり来年以降も続けてほしいという意見が多かった。一方、これまでは日本の税制についての内容になっているため、今後は日本と外国の税制や、国連年金と所得税について詳しい講師を見つけることが課題となると思われる。

詠 昌弘(ながめ まさひろ)氏 プロフィール
NPO法人日本ファイナンシャル・プランナーズ協会 城北相続支援ネットワーク(代表)
スタディーグループFPねりま、一般社団法人経済教育支援機構 所属

「国連職員を目指す学部生・大学院生のための実践講座」

AFICS-Japanが主催する第7期「国連職員を目指す学部生・大学院生のための実践講座」が2025年8月27日(水)から8月30日(土)にオンライン形式で開催された。

講義は、第1回:国連職員への道(久壽居良外務省国際機関人事センター室長)、第2回:人事・財務・法務・調達・IT に関する仕事(講師:滝澤三郎氏)、第3回:国際平和と安全保障に関する仕事(講師:中谷純江氏)、第4回:保健医療に関する仕事(講師:野崎慎仁郎氏)、第5回:ジェンダー平等推進に関する仕事(講師:宮負こう氏)、第6回:開発と気候変動に関する仕事(講師:山崎節子氏)、第7回:人権に関する仕事(講師:佐治まどか氏)、第8回:移民・人道に関する仕事(講師:東山慎太郎氏)の計8回行われ、毎日2回目の講義の後に参加者同士の交流の場としてネットワーキングタイムが設けられた。今回の実践講座には40大学から75名(うち女性55名)の参加者があった。次回、第8期実践講座は、2026年年3月25日から3月28日に開催される予定である。

田島まいこ参議院議員との対談会

長谷川会長と田島まいこ参議院議員との対談会は2025年9月12日午前11:00-12:00、参議院議員会館で行われ、AFICS-Japan会員が8名、会員以外1名が参加した。初めに田島議員から挨拶があり、現在参議院議員2期目である。国連にはWFPに入所し、ラオス、イタリア、アルメニア、エジプト、南アフリカで13年間勤務したという経歴を話された。対談の中で、田島議員は、国連での勤務経験、特に貧困や開発の現場を経験している数少ない国会議員としてやるべきことはたくさんあると思い、自分が経験し

てきた分野で国の政策面で貢献をしていきたいと思うと抱負を述べられた。対談後、出席者との質疑応答が行われ、日本における第三国定住難民の受け入れや多文化共生事業の現状、ガザやウクライナの惨状に対して日本政府や国民が協力できること、国連PKO資金の民事への活用、日本の人権状況についての国連からの勧告の国民への周知、など様々な意見や質問がなされ活発な議論が行われた。最後に長谷川会長から、世界の平和が成り立つためには、国連が権威をもった機関になること、そのためには国連の安保理の改革が必要であると思う。その際、日本は安保理改革を自国の立場だけで考えるのではなく国際社会のことを考えて行動してほしい。世界政府という抵抗があるかもしれないが、Boundaryがなくなるような世界社会を作り、平和で、女性や子どもが幸せに生きれるような世界を作してほしいと思うと述べ対談を終えた。

(記録:澤田良枝執行委員)

第55回FAFICS Council報告

第55回FAFICS Councilは、ハイブリッド会議形態(対面とオンラインの併用)で2025年7月14日-18日にウィーンで開催された。AFICS-Japanを代表して佐藤純子副会長と永吉紀子執行委員がオンラインで出席した。会議に提出された報告書のハイライトは以下のとおりである。

- Jerry Barton会長は、ここ数年の最大の課題であったFAFICSの新しい規則(Rules of Procedure)を実施することに集中し、規則に関する議論は尽くされたが、コミュニケーションの強化、メンバー協会の増加、活動の透明性についての議論は継続していると述べた。

- FAFICSの行財政については、年金理事会やその他の国連の行財政関連の委員会でのFAFICS代表の活躍を支えるため、予算における旅費の支出が増加しており、収入の増加を図るためにもメンバー協会の増加の必要性が指摘された。

- 国連年金については、Chief Executive of Pension Administration(CEPA)のRosemarie McClean氏と投資部門のActing RSGの進藤達氏が、国連年金システムの一年間の活動と投資の推移を総括した。最も関心の高い総投資額は、2025年6月末時点で、最高額であるUS\$92.6 Billionに達した。これは2021年のピークを更新したことになり、国連年金基金が健全であることが確認された。(因みに2026年1月16日時点では、US\$108.3 Billionである。なお総投資額はウェブサイトで常時更新されている。)またDigital Certificate of Entitlement(DCE)の登録者が、2025年6月の時点で50%を超えたことと、IT推進の一環としてMember Self-Service (MSS) へのアクセスにMulti-Factor Authenticationの採用を計画中であることが報告された。

- Standing Committee on Communication(SCC)は2024年8月から2025年6月にかけて、FAFICSのデジタル・コミュニケーション戦略の整備を行い、FAFICSのウェブサイトを刷新した。新しいウェブサイトについては、利用者アンケートを行い、その結果に基づきさらなる改善を行った。2025年後半は、多言語機能の導入など、さらなるデジタル戦略の強化を目指している。

- 2つのVice-Presidentsの空席に対し4人が立候補し選挙が行われ、Adriana Gomez Seguez (AFICS-Chile)とClemens Adams(AAFI-AFICS Geneva)の2人がVPに選ばれた。

- 第54回Councilで新しく創設されたStanding Committee on Membershipでは、Marsshetty Seenappa氏 (AFUNPI-India)とAbdou Khadre Diakhate氏 (ASAFI-Senegal)が1メンバー協会の増加の努力を行ったが、この1年ではメンバー協会を増やすことはできなかったと1年間の活動を報告した。ネックとなっているのは、アフリカなど開発途上国ではFAFICSへの分担金の支払いが大きな経済的負

担で、そのためメンバーになっている協会でも休眠状態になったり分担金を滞納しているケースがある。しかし、休眠状態だった2協会（UNPAI-New Delhiと、AAFNU－Mauritania）が、委員会からの強い働きかけで、活動を再開するなどの朗報もあった。

- 第56回FAFICS Councilは、2026年7月に開催予定の国連年金理事会と同じ開催地で、理事会の前の週に開催される予定である。

- 2025年はFAFICS創立から50周年にあたり、7月18日、FAFICS Council終了後、午後2時から同じ会場でFAFICS創立50周年記念式典が行われた。

（報告：佐藤純子副会長、永吉紀子執行委員）

高瀬千賀子さんを偲ぶ会

5月23日に亡くなられた高瀬千賀子さんを偲び、AFICS-Japanの有志により、「高瀬千賀子さんを偲ぶ会」が10月30日午後2時から東京都北区滝野川会館で行われた。オンラインでの参加も含め31名が出席し、高瀬さんとの思い出、エピソードを語りあった。

国連合唱団平和コンサート事業

日本の国連加盟70周年の記念事業として、国連合唱団が2026年10月11日～25日、東京、長崎、京都、広島で平和コンサートを開催する予定である。AFICS-Japanは、長谷川祐弘会長が事業の特別顧問として、佐藤副会長が東京実行委員会のメンバーとして、国連広報センター、国連大学などとともに、この活動に協力をしており、2025年11月18日、国連大学会議室で開かれた第2回説明会に出席した。

国連年金のMember Self-Service (MSS)

国連年金本部から、UNJSPFのMember Self-Service (MSS)の利用者宛（年金受給者、参加者、退職者）に、10月11日以降、MSSに再登録し、Multi-Factor Authentication を設定する必要があるというお知らせメールが配信された。今後、MSSにアクセスするためには、登録が必要であるため、登録・再登録をまだ済ませていない方は、早めに登録・再登録をしてください。ご不明な点がございましたら、AFICS-Japan事務局（年金担当者）までご連絡ください。

事務局連絡先：afics.japan@gmail.com

会員短信

- 長谷川祐弘会長瑞宝中綬章授与

2025年秋の叙勲で長谷川祐弘AFICS-Japan会長が瑞宝中綬章（国際機関功労）を授与されました。長年にわたり国際平和のために尽力されたご功績が認められたことに敬意を表し、栄えある受賞を心よりお祝いいたします。

- **新入会員**

前川美湖さん (UNDP Rwanda Office)、茂野玲さん (UN Transitional Assistance Mission in Somali)、山本恭久さん (UNDP)が新たに会員となりました。2026年1月31日現在の会員数は118人です。

お知らせ

- **役員の改選選挙(執行委員6—10名、監査役1名)**

立候補受付中

現行役員の任期満了(2026年3月31日)にともない、3月23日の第15回年次総会で改選選挙を行います。

公示期間:2026年1月19日(月)～ 2026年2月19日(木)

候補者受付期間:2026年1月19日(月)午前9時～2月19日(木)午後5時

選挙と役員最終承認:2026年3月23日(月)年次総会で行います。

- **第15回年次総会・講演会・懇親会のご案内:**

2026年3月23日(月)国際文化会館、午後5時30分から開催予定(午後5時受付開始)

総会:17:30-18:00

講演会:18:00-18:45 講師:星野俊也 日本国連学会理事長、大阪大学教授

懇親会:19:00-20:00

最寄駅:都営地下鉄大江戸線 麻布十番駅(出口7)から徒歩5分

東京メトロ日比谷線 六本木駅(出口3)から徒歩10分

総会、講演、懇親会の詳細は追って会員にメールでお知らせします。

- **2026年会費納入のお願い:**

2026年会費(5千円)の納入をお願いします。

三菱UFJ銀行麹町支店(店番 616)

普通預金: 口座番号 0118643

口座名義:アフックス ジャパン 澤田 良枝(振込確認欄には会計担当者の名前が印字されます。)

☆振込人のお名前は会員のお名前をお願いいたします。

前年度会費未納の方は、その分も合わせてお振込みください。

- **会員からの投稿募集:**

AFICS-Jの中で共有したい情報(会員自身の著書出版やリタイア後のお話しなど)の投稿をお待ちしております。その他にもニュースレターで取り上げてほしいテーマやご意見がありましたら、AFICS-Japan事務局までご連絡ください。

事務局連絡先:afics.japan@gmail.com

ホームページ: <http://www.afics-japan.org>